

奨励賞



設計担当者

水越英一郎

東京建築士会
(株)山下設計

水越

共同設計者

篠崎亮平

東京建築士会
(株)山下設計

宮崎俊亮

東京建築士会
清水建設(株)



篠崎



宮崎

大学／東京都新宿区戸山

早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

構造 | 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・鉄筋コンクリート造

建築面積 | 5,485.66㎡

階数 | 地上4階・地下2階

延べ面積 | 14,028.37㎡

敷地面積 | 33,362.24㎡
(キャンパス全体)

竣工 | 平成30年11月30日
(付帯工事等含む)



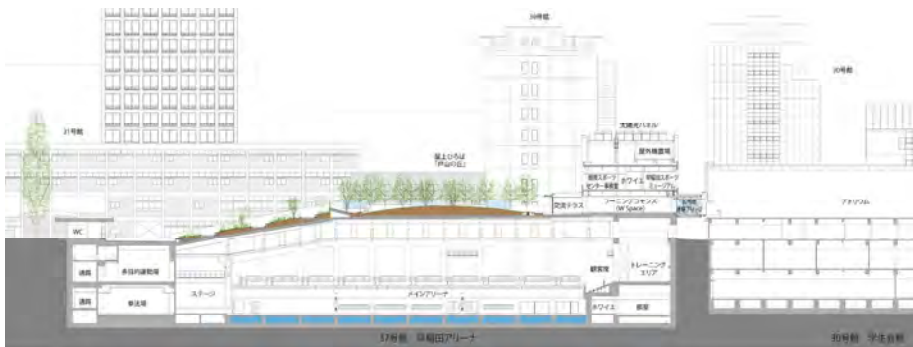
1



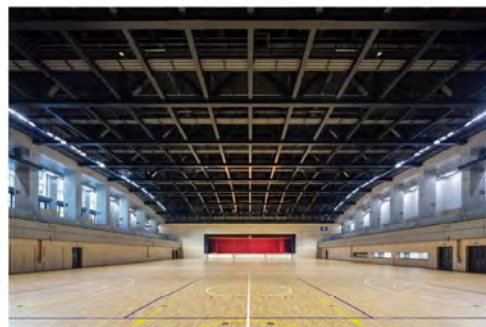
2



3



東西断面図



4

1 敷地北東側より見る

2 33号館屋上(南側)より「戸山の丘」を見る

3 「戸山の丘」。建築エレメントを離散的に配置し、緩やかな領域を形成している

4 地下2階・地下1階 メインアリーナ

写真1~4…新建築社写真部

選評

記念会堂の建替えに伴い、街とつながる新しいキャンパス計画をめざした作品。メインアリーナを地下に埋め、その上をランドスケープとして一般に開放するという、大胆な提案である。

村野藤吾設計の校舎群に増改築を重ねてきたキャンパスに対し、ステルス性の高い設計を選んだことが、まずは大きな成功につながっている。また「建築ではなく環境による新しいシンボル性」

という設計方針は現代的で、この設計そのものが大学の今後のビジョンを指し示している。

地上部のランドスケープは、自然界の循環メカニズムにできるだけ近い状態をつくり、主張しすぎない家具を点在させることで、将来の変化を受け入れる大らかさを生み出している。また地中熱をフル活用した設備計画は、地下化のデメリットを相殺する環境配慮面での挑戦として評価された。

一点議論になったのは、アリーナの内部空間だった。地上のステルス性に対し、内部においては、トラス天井面の扱い方・採光の生かし方・地上部とのつながり方など、「地下大空間のデザインの可能性」を示す絶好の機会だったと思う。地上のランドスケープと地下のアリーナが対照的かつ対等なデザインの強度を持つことも可能だったのではなか。 (富永祥子)